

総合計画・総合戦略に対するご意見等

委員名	区分	ご意見等
委員1	総合計画	県外市外からの企業移転 県外進学者の市内企業就職の支援 行政のデジタル化による市民生活の利便性向上 中心市街地の活性化(インター周辺からの人の回遊) 新規就農者支援等による耕作放棄地の低減
	総合戦略	目標人口 移住者件数 空き家調査、対策、行政支援の充実 育児と仕事の両立支援サポート(早朝の小学校等の居場所拡大など)
委員2	総合計画	地域医療に関し、高齢化社会が進行している状況において、医療と介護をより密接に連携させるための取り組み、例えば在宅医療の充実など、地域包括ケアシステムの効果をより高める施策が重要になると考えます。
	総合戦略	・予防医療について、住民の健康づくり意識を醸成し、生活習慣病等の予防のための取り組みをさらに推進するため、住民自らが参加しやすいプログラムを充実していくことが必要と考えます。 ・地域(市内)の1次診療を担う診療所において、持続的な医療体制を構築するための取り組みとして、医師などの医療従事者を、市が計画的に確保していくことも重要と思われます。
委員3	総合戦略	子育て世代、老人にやさしい街作り。たとえば、歩道の整備。 段差を無くし、ベビーカー、手押し車がスムーズに通れるようにする。 出産時に「子育て広場」の存在を知らせてあげる。
委員4	総合計画	①追加資料1の基本目標1についてですが、P1プロセス指標、区の運営に関わる女性役員がいる区の数 達成率75.4%とあります。昨年度、私が町の副区長、今年度は夫が区長を務めております。実際に町の活動をやってみて今後女性が区役員を担うには仕事量を減らしたり、市と区の仕組みなどを変えていかないと増えないと思います。現実(実際の経験者)の声を聞く機会を設けてほしいと思います。
	総合計画	②第六次総合計画・後期に対する意見を提出するにあたり、ふるさと納税についてのことがあり、これからの須坂市の行政が思うように進まないのではないかと心配しております。(ふるさと納税による事業ができず、第六次総合計画・後期が出来上がっていきけるのか心配しております。) ただ、心配したり不安に思っているのは前に進まないで、私の身近なところから大好きな須坂市を応援していきたいと思っています。
	総合戦略	まちの活性化のため、空家対策事業に力を入れてほしいです。インター周辺が注目されていますが、私の友人から「インター周辺は広すぎて普段の買い物は駅前のイオンで充分だ」との声がありました。駅周辺の活性化も大切だと思います。
	総合戦略	須坂市にはたくさんの美味しい果物がたくさんあります。もっとアピールしてみてもどうでしょうか。

委員名	区分	ご意見等
委員5	総合計画	少子化が現実になってきた今年も様々な将来への課題が提案されていますが、予算面で無理ということのない施策を住民と一しょに考えてほしい。 子育て中、親が一番困ることは、体調急変の時の小児科対応です。救急外来窓口が小児科医が当番とは限らない。小児科専門の独立した24時間安心して対応できる医療機関の実現を望みたい。
	総合計画	免許返納による交通手段の問題では、生きがいを求めたり、買い物弱者を考える時、また、通院等の利便性を考えていただく施策を 介護生活にならない為に、今まで以上に健康維持できる体制づくりも続けてほしい。
	総合戦略	インター開発で須坂市の人口、しごとなど、どのように変化していくのか、楽しみではあるが、今後5年、無理のない行政を行ってほしい。
委員6	総合計画 総合戦略	1 少子高齢化社会の中で5万人程度の人口を維持してはいるものの高齢化率は30%越え。知恵や文化、伝統を継承していくための異世代交流の場を地域コミュニティーだけに限らず教育の場へ。学区で区分された地域総合学習の枠にとらわれない須坂市全域への広がりも必要。
	総合計画 総合戦略	2 地理的優位な立地ではあるものの公共交通手段がやはり長野駅から須坂へという導線意識は強い。峰の原を意識すると東京からは上田駅という意識なので(インターも上田菅平と長野須坂東への距離はほぼ20K強。移住者への呼び込みも上田からという視点は必要不可欠。
	総合計画 総合戦略	3 上信越国立公園という国が認めた素晴らしい景観、自然生態系の価値を保護という観点から利用という観点へ。国立公園を資源とした観光産業を発展させるために多様な地域の関係者連携による景観整備、ガイド人材育成を含めた協働型管理運営の確立を目指したい。
	総合計画 総合戦略	4 歴史文化、博物館構想の中でまとめられた地域資源を結ぶ道しるべの1本化。
	総合計画 総合戦略	5 空き家、空き地(農山村知育も含む)の有効利用。柔軟な活用ができる規制緩和と教育活動への提供など
	総合計画 総合戦略	6 子育て世代が安心して教育(高校まで)を任せられる学校、地域で関わる学校教育の水準UP、学校外での教育活動の充実を目指したい。
	総合計画 総合戦略	7 地方によくある人が歩いていない歩道の荒れ方対応をどうしていくか、(鮎川沿いの外来種の繁茂も地域住民では対応しきれなくなっているように感じます。)また雪による道路の陥没等、今後ますます必要になってくるかと思いますがそこへの不安は大きい。

委員名	区分	ご意見等
委員7	総合計画	基本目標の「多様性を認め合い、誰もが活躍できるまち」「子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち」について、性教育の充実を提案したいです。小学校4年生になると、学校で90分だけ「第二性徴」について学びますが、それだけでは不十分です。私の言いたい性教育は、単に「生殖」についてだけではなく、自分の体は自分のもの、自分の体の大切な場所は人に見せたり触らせたりしない、から始まり、身体のしくみ、いのちはどうやって誕生するのか、そして、性暴力からどう自分を守るのか、ということです。 自分は望まれて生まれてきた、自分は大切にされる価値があると子ども自身が知ることによって自己肯定感が上がり、自分も他人も大切にできる子になります。 最近自分自身が性教育を学び、昨今の「セクハラ・マタハラ・女性蔑視・性暴力事件」、「いじめ・不登校・引きこもり・児童虐待」を無くしていくには子どもたちへの性教育しかないと思身に染みて分かりました。 今は「おうち性教育」の書籍もたくさん出ていますし、幼稚園の独自の取り組みで性教育の絵本や紙芝居を見せているところもありますが、まだまだ一般には浸透しているとは言いがたいです。しかし、人間としての根っこ部分を育てるという意味で、最も重要な学びだと考えます。 他、「地域資源を活かした観光の振興」の部分で、着物文化を推してみたいかと思いますが、須坂クラシック美術館ではたくさん銘仙のコレクションを所蔵しており、着付け体験もでき、着物が似合う警官がたくさんあります。外国人観光客にも着物は大人気ですし、着物を洋服と自由に組み合わせる新しいファッションも流行っていますし。お茶などとパッケージして日本文化体験をおやこ遊学に取り入れるのも良いと思います。
	総合戦略	未来への種まきとして、子どもへのお金の教育・英語教育の充実が必要だと考えています。 お金の教育に関して、この数年で会社に出勤してフルタイムで勤める以外にもリモートワーク、起業、複業、二拠点居住、ワーケーションなど様々な働き方をするようになりました。「生活していくにはいくら必要か」、「どうやって稼ぐか」、「自分のやりたい仕事でいくら稼げるのか」、「足りなかったら何で補うのか」などを小学生のうちから考え、意識することで「どこでも自力で生きていける力」を身につけることができます。個人的には、特に若い子は一度は地元を離れ、少なくとも県外・できれば国外に出て未体験の環境に身を置く経験をしてほしいと思っていますのですが、「どこでも自力で生きていける力」があれば、仕事が少ない須坂にも定住する可能性が増すのではないかと思います。 英語教育に関して、現在1年生から外国語活動をやっており、3年生から時間数が増え、5年生から今日から成績がつくようになっていきます。ぜひ1年生でフォニックスを取り入れてほしいです。 1年生の国語で、まずひらがなの読み書きから練習しますが、フォニックスはアルファベットに対応する音を学びます。フォニックスは英語圏の国ではひらがなの読み書きと同じように、幼稚園や小学校1年生に相当する時期に基礎の基礎として学ばれていますが、なぜか日本ではこれを一切やりません。しかし、これが無いのが子どもたちを英語苦手・嫌いにさせている要因だと思うのです。私自身、フォニックスを学んでやっと英語がある程度聞き取れるようになったので。耳の良い子どもたちならぐんぐん伸びます。今や英語ができないとできる仕事が無くなると言われている中、「どこでも自力で生きていける力」として英語力は必須です。小学校には外国人の先生もいらっしゃるの、ぜひその先生に授業で取り入れてもらいたいです。 おやこ遊学はとてもいいと思います。農業小学校や、昨年の森ラボのような内容は都会の子たちにもとても魅力的だと思います。 教育についての施策提案をメインにしましたが、ユニークな教育というのは移住を検討している子育て世代にとってかなり強力な魅力になります。自分自身が移住する時にちょっと引っかかったのは、「子どもの学校の選択肢が相当に狭まる」という点でした。しかし、保育園留学に代表されるように、子どもの教育のために、お金と手間を惜しまない親は一定数います。

委員名	区分	ご意見等
委員8	総合計画 総合戦略	○交通に関する整備について ・保育園周辺の細い道には停止線や標識などなく、危険なことが度々あるので整備してほしい ・インター周辺の開発が進み、渋滞が予想されるがそれに対する対策が不安・交通量の増加により通学・通園の際の安全性が不安 須坂での生活は、車が無くてもならない交通手段であり、高齢者化が進む中で、農業を行う市民も多く、高齢者の運転免許証返納がすすむまで待てません。 また、須坂市の道は(保育園周辺だけでなく)見通しの悪い場所も少なくないと思います。 お互い注意していても事故に巻き込まれたり事故を起こしてしまう可能性もあります。 事故が起きたとしても命が守られるような整備をすすめる政策にも力を入れていただきたいと思いました。
	総合計画 総合戦略	○情報の発信について ・信州医療センター小児科の午後の診察について、知らなかった。 ・公立保育園の3才以上児童の主食持参について不満がある。 ・保育園の事情で別々の保育園に兄弟預けているが大変である。 4月1日に小児科が新しく新設されましたが、小児科受診や病児保育で困っているが今後についてどのように政策が粉われる予定なのかや、 保育園ごはん持参を続けている理由(朝食にごはんを食べてほしい・炊飯器を置く場所がない、調理員も不足している等あると思います) 保育施設の定員や保育士の不足等により希望している保育園に入れない理由の事情など 保護者は知らなかった、もっと知りたいと思っているが、保護者はうまく情報を受け取れていないため、情報の発信量を増やして欲しい点です。 不便を感じた時に、調べることも多いため、インターネットのようにいつでも閲覧できる情報公開を望みます。 全戸配布・隣組回覧や広報須坂での周知も大切ですが、過去のことや負の情報や今後の方向性も知りたいと思っています。 ・自分自身の体験の中では、親子で外出の際に、市ホームページやいけいけすずかのホームページのイベントカレンダーも見ます。 民間で行っているイベントなどはあまり無く、官民連携し、民間等で行っているイベントも全て見れるようなページが欲しいです。
	総合計画 総合戦略	○子どもが利用できる施設の整備 ・自然の中での体験が大切とあるが、天候や気温により外で遊ぶことが難しい日も多い ・自然の中で自由に遊ぶには、危険箇所を整備しなければ自由にさせてあげられない ・どの年代も満足できる場所が欲しい(botaは児童が利用できないため兄弟の幼児も行きにくい、乳児と幼児を外で遊ばせる場所に困るなど) 大人1人で複数の子どもと出かける場合に困ることが多々あり、自宅で兄弟でいる時に喧嘩が起こることも少なくありません。 土日祝日などの子どもの居場所づくりとして、利用が少ない体育施設を予約の必要なく利用できる場所として開放していただければと感じます。 インターネットで廃校の活用例を見ましたが、戸隠地質化石博物館であったり、ながのこども館なかノビ！のように既存？の施設を利用して、 有料の子どもの利用場所を増やしていただきたいです。 また、インター周辺にも、買い物中に子どもが遊べる施設を(イオンが作るだろうと思われる○分○円の遊び場のほかに市の施設(委託運営だとしても))があれば、 需要はあると考えます。